

POWER UP

INTERVIEW

UTOPIA デザイナー ^{さとう ゆうと} 佐藤 悠人 氏

“旅する衣”がブランドのテーマ。 衣服に込めた物語を世界に届けたい



PROFILE

1986年生まれ、秋田県出身。小学生のときに山形へ移住し、高校卒業まで過ごす。新潟市内の服飾専門学校で洋裁を学び、卒業後、2009年からUtopiaの名で表現活動を開始。リメイクやハンドメイドで服を作り、新潟県内外でファッションショーを企画・参加。2017年にUTOPIAを設立し、地場の伝統や産業などと手を組み、素材から作り始める。現在、東北・関東・関西など各地の展示会やイベントに参加・出店し、活動の幅を広げている。

2017年に設立した服飾ブランドUTOPIA。独自の世界観をデザインに落とし込み、新潟県内の素材を中心に使った衣服や小物は、幅広い年齢のお客様に愛されています。新潟から世界を目指して挑戦を続けるデザイナーの佐藤さんに、お話を伺いました。



UTOPIA
〒951-8126
新潟市中央区学校町通2-598
https://www.instagram.com/utopia_25/
yutosato.25@gmail.com

UTOPIA を通じて世界中の人と友達
になりたい。お客様、仕事を依頼す
る方々とも友達のようなコミュニケー
ションをとれる関係でいたいです

かめだじま

亀田縞や五泉ニットと出会い 本格的に服飾づくりを開始

UTOPIA はデザイナーの佐藤悠人^{さとうゆうと}さんが自身の名前の由来であるユートピア(理想郷)にふさわしい服づくりを目指し、立ち上げたブランドだ。「最初はファッションショーやライブでの洋服づくりなど、人と繋がる活動をしていましたが、そのうちに衣装の依頼などが来るようになりました。そこで一度、繊維からこだわって洋服を作ってみようと思い、2017年に起業という形にしたのです」と佐藤さん。そして、いろいろな人との縁がきっかけで亀田縞や五泉ニットと出会い、新潟の素材を使った衣服や小物制作を本格的に始める。

旅人の物語をデザインに込めて。 UTOPIA の世界観を表現する

UTOPIA は「旅する衣」をテーマに、性別が分らない19歳の旅人の物語を衣服のデザインに落とし込んでいる。「今はこのブランドを好きになってくれるようなモノづくりを意識しています」と話すように、着心地を大切にしたい服はユニセックスで、ゆったりとしたシルエットが特徴。現在は新潟伊勢丹「NIIGATA 越品」をはじめ、全国各地の合同展示会やポップアップストアに出店し、ファンを増やしている。「UTOPIA の世界観や考え方がどこまで通用するのかを知りたくて県外に出ています。出店する度に新しい発見があります」。

また、これまで開催してきたファッションショーでも、独自の世界観を表現。「業界やメディア向けではなく、ファッションに興味のなかった人が、興味を持つきっかけとなるような、総合芸術の



古民家をリノベーションしたアトリエ兼ショップで制作する佐藤さん。壁に貼られた目標「5年以内にUTOPIAパリ進出」の足掛かりとして、今は東京コレクションを目指している。

ショーにしたいんです」というように、ダンスや音楽などを融合させたショーは多くの観客に好評だった。

新潟から日本全国、アジア、 パリ、世界へと広げていきたい

2020年には商工会議所を通して小規模事業者持続化補助金※(P9参照)を申請し、感謝の気持ちをマスクに託す「PASS THE MASK」というプロジェクトを実施。これまで経営相談も度々利用し、「ビジネスに関して疎いので、いろいろな情報や考え方のヒントをもらえる場所として、困ったときに相談しています」と佐藤さん。今年2月にはパリのファッションウィークの視察に出掛けるなど、2018年から目標に掲げる「パリコレ進出」に向けて準備を進めている。「UTOPIA というブランドを新潟から日本全国、アジア、パリ、世界へと広げていきたい。そのためにまずは東京コレクションに向けて、クリエイションのレベルアップをはじめ、仕事を依頼する工場との連携をより深めるなど、淡々と取り組んでいるところです」。

UTOPIA の物語を新潟から世界へ発信するため、着実に歩みを進める佐藤さん。その夢の実現は確実に近づいている。



19歳の主人公が旅の中で見た景色、出会った人、経験などを通じて成長していく過程を一つの詩に起こし、その物語に沿ったコレクションを展開。洋服、カバン、帽子、靴下などいろいろなアイテムを通してブランドのテーマを伝えている。